家庭全般の省エネを進めよう

CO2排出量取引制度を創設

ニュースな視点

ただ、ひたすらに前に進むしかない

経済ジャーナリスト　上妻(こうづま)　英夫

景気がどうか、を論(あげつら)うことすら躊躇する閉塞状況が続いている。だが、この厳しい経済状況の中で、黙々と自社の掲げた目標に向かい、知恵を絞り出した〝自助努力〟の結果、成長を続ける会社も少なくない。

「現政府には全く期待しない。現場の叫びは全く届かず、元気なニッポンづくりの方向さえ指し示せず。待ったなしだから、自分で今まで以上に努力を重ねる覚悟で仕事をしている」と語る中小の店主。

全社員でアイデアを出す社風、社是の「衆知をもって常に創造せよ」を実践する元気な企業が中野BC株式会社(和歌山県海南市)。清酒・焼酎業界がいまひとつ元気がない業界の中で、同社は梅酒部門に力を入れ、積極的に〝カクテル梅酒〟の商品開発に取り組む。

5年間で20種類の新商品を出し続け、梅酒部門の売り上げが5年で25倍の成長株になっている。中野幸生社長(70)の業務は幹部、セクションの責任者が集まった朝礼から始まる。「企業も変わらなければ抽てられる」が口ぐせ。現場を回り、一人一人を励ます。時には「オマエ、変われよ」と檄が飛ぶ。

独自性が強く、技術結集型の研究開発企業が注目されている。「人工太陽照明灯」を製造・販売している中央(区)は、光(太陽)のベンチャービジネスで、創業26年。日本初というより世界初といってもいい企業でもある。

晴天時、正午の2時間前後に地表に到達する太陽光と同じ光の質(分光特性)を出す照明であり、太陽光の持つ特性に極めて近い光を照射する。これが人工太陽照明灯である。色彩は照明によって微妙に違って見えるもの。基準の色を決める時には太陽の光が一番という。デザインやファッション、調色、写真など、色彩を正確に扱う仕事で注目を集めている。

「写真、電気機器、自動車、印刷、塗装、デパート・商業施設、化粧品、食品など各業界で人工太陽照明灯を使用しています。これからは〝健康〟をキーワードに、レジャー関連施設、海外進出を計画しています。生涯現役の技術者会長の下、『どこにかく、新しいものを創れ』の檄が飛んでいます」と佐藤郁夫社長。

理論だけでは通用しない時代。頭では十分わかっているが、なかなか前に進めない人たちも少なくない。中国の王陽明や吉田松陰が語った有名な言葉がある。「知行合一」で、知っていても行わないのは、いまだ知らないのと同じ、という意味である。本当の知識は実践を伴うという実践哲学である。

アメリカで二つの会社を成功させた大富豪が、日本人の国際コンサルタントに「なんでほとんどの人が成功できないか、わかるか」という質問を投げかけた。その大富豪は「ほとんどの人が成功できない最大の理由の一つは『やるべきこと、やれることを今の時すぐに全部やらない』からだよ」と言った、という。

どういう状況であれ、諦めないで、スピード感を持って、ただひたすらに前に進むしかないのかもしれない。そう実感できるまで、日々の仕事に取り組みたいものである。